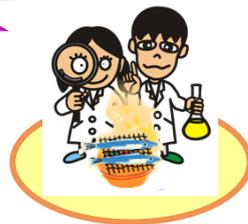


感染症に気をつけよう!

2021年【10月号】



横浜市内の感染症 流行状況

10月13日
発行

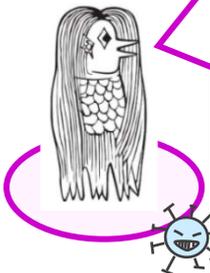
感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】  クリック
新型コロナウイルス感染症*	 流行	 減少	8月下旬がピークでした。今後、感染が急拡大し第6波が来る可能性があります。【'21.9号】
腸管出血性大腸菌感染症**	 発生	 横ばい	6月に施設で集団感染事例が発生した後は、例年と同様の報告数です。【'19.9号】【ちらし】
梅毒**	 発生	 横ばい	報告数の比較的多い状況が、継続しています。

国立感染症研究所* 厚生労働省**

今、気をつけたい感染症 新型コロナウイルス感染症



新型コロナウイルス感染症と季節性インフルエンザ等は、症状だけで区別することは困難です。医療機関では、どちらのケースにも対応できるように事前準備が必要です。**発熱・咳・のどの痛み・全身倦怠感**などの症状が出たら、**受診する前に必ず医療機関へ連絡**してください。



感染した人の口や鼻から、咳や会話などの時に排出される、**ウイルスを含む飛沫**または更に小さな粒子(**エアロゾル**)を吸い込むと**感染**します。特に、エアロゾルは1mより離れた空気中にとどまる可能性があります。そのため、**長時間滞在しがちな、換気が不十分だったり、混雑した室内では、感染が広がるリスク**があるのです。また、**ウイルスが付いた物に触った後、手を洗わずに目・鼻・口に触れて感染**する場合があります。***



長引く症状(後遺症)について、6月に次の中間報告が出ています。***
2020年1月~2021年2月にCOVID-19 PCR検査もしくは抗原検査陽性で入院した525症例のうち、**診断後6か月経過した246例において症状が残っている人の割合** = **疲労感・倦怠感21%、息苦しさ13%、睡眠障害・思考力や集中力低下11%、脱毛10%、筋力低下・頭痛・嗅覚味覚障害9%**

厚生労働省
【新型コロナウイルスに関するQ&A】***

横浜市保健所
【新型コロナウイルス感染症対策】

横浜市衛生研究所
【感染症情報センター】